

ちゅんちゅん新聞

2月9日
木曜日

鳥の身体にある場所の名前

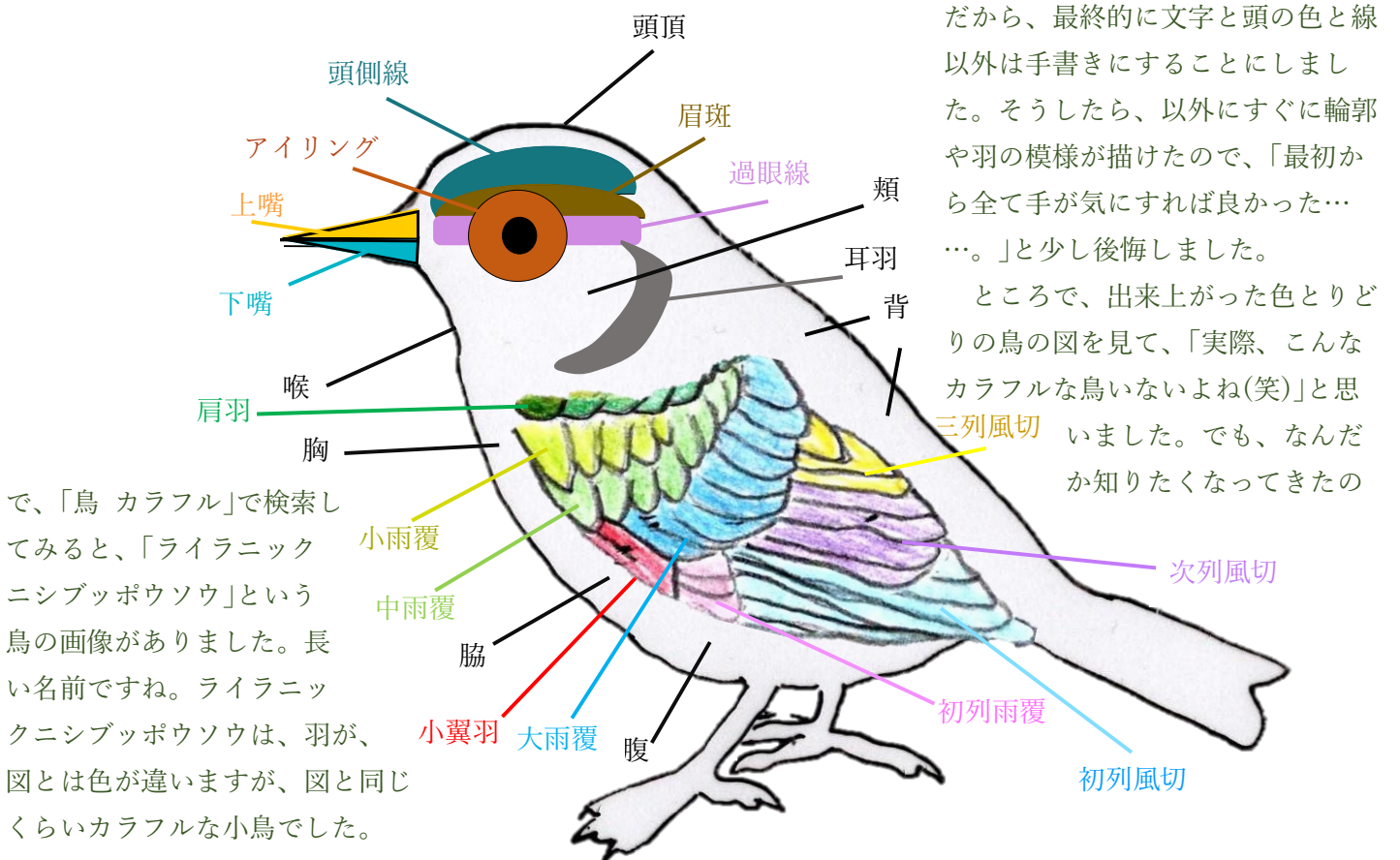
鳥の身体には、それぞれ、細かく名前が付いている。こうした名前のことを、「部位名称」という。この部位名称を覚えておくと、特定の鳥のことを説明するときに、説明しやすくなって便利だ。例えば、メジロは、目の周りが白いのだが、これを「メジロは、目の周りが白い」というよりも、「メジロは、アイリングが白い」というほうが、まとまる。

「全ての部位名称を覚えるのは大変そう」と思うかもしれないが、今、全てを頑張って暗記しなくても、何かの機会に「ここは何て名前だっけ」と、下の図を見て思い出せばいい。そうすれば、自然に、いつの間にか、覚えることができる。背、腰、三列風切、上尾筒、下尾筒、尾羽、あしゆび…

私はこの新聞を書いている、ちゅんちゅんです！

私は、この記事の文章はあっという間に書き終わりましたが、鳥の図を描くのに苦戦しました。最初はすべて手描きにするつもりだったのですが、鉛筆で鳥の輪郭を描くのが面倒くさくなってしまったし、パソコンで絵を描く方が楽に思えたので、全てパソコンで描くことにしました。

しかし、パソコンで描いてみると、慣れていないせいもあり、鉛筆で描くよりも大変でした。それで、色々苦戦してしまったために、記事が完成するのが遅くなってしまいました。



だから、最終的に文字と頭の色と線以外は手書きにすることにしました。そうしたら、以外にすぐに輪郭や羽の模様が描けたので、「最初から全て手が気にすれば良かった…」と少し後悔しました。

ところで、出来上がった色とりどりの鳥の図を見て、「実際、こんなカラフルな鳥いないよね(笑)」と思いました。でも、なんだか知りたくなってきたの

で、「鳥 カラフル」で検索してみると、「ライラニックニシブツポウソウ」という鳥の画像がありました。長い名前ですね。ライラニックニシブツポウソウは、羽が、図とは色が違いますが、図と同じくらいカラフルな小鳥でした。

(参考：「今日からはじめるばーどらいふ!」、一日一種 著、文一総合出版)

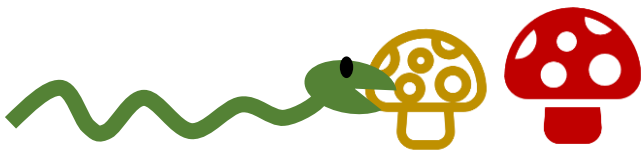
キノコの種類

キノコは、名前が付いているものは、日本だけでも3千種以上ある。しかし、名前が付いているのは「実際に存在するキノコの1割にも満たない」と考えられている。

キノコを見分けるときは、かさの裏が重要。見た目だけでキノコの種類を見分けるときは、「かさの裏のひだを見る」ということと、「柄を見る」ということ、そして「生えた場所がどこか、見る」ということをする必要があります。

かさの裏に付いている、キノコが仲間を増やすために飛ばす「胞子」は、成熟すると、仲間ごとに特徴的な色になる。例えば、「コキイロウラベニタケ」をふくむイッポンシメジ科のキノコの胞子は、成熟すると、鮭の身のようなピンク色になる。また、ひだがキノコの柄にどのように付くかも重要。柄から離れているのか、くっつく部分の形がどうなっているのかを見る。

かさの表側の見た目は、かさの裏を確かめた後、より種類を絞り込みたいときに必要になるにすぎない。最初はとにかく、かさの裏が重要なのだ。
(朝日小学生新聞12月13日より)



注意

キノコを自分で判断して、食べたり

触ったりするのは危険なのでやめましょう

志段味図書館で

ちゅんちゅんが書いた

昔話の朗読会!

ちゅんちゅんが書いた昔話の朗読会を開きます。志段味図書館（名古屋市守山区）の館長さんに、「清郎と魚コ（せいろうとさかなこ）」という創作昔話（「おはなしエンジェル子ども創作コンクール」銀賞）と、「雀コの米作り（すずめこのこめづくり）」という創作昔話を朗読してもらい、それに合わせて「ザ・ツリーポット」の2人が演奏してくれます。



人数制限がありますが、ぜひ、きてくださいね!

日にち：2023年3月12日

場所：名古屋市立 志段味図書館

ザ・ツリーポットの2人が、チラシを作ってくれました。でも、15号では場所が空いていなくてチラシを載せることができなかったので、16号に一面広告で載せようと思っています。詳しくは16号の一面広告で。

「雀コの米作り」は、ちゅんちゅん新聞に連載する予定です。



紹介します！

～オススメの本～

今回のオススメの本は…

「猫語の教科書」

私は、この本は、内容に対して題名がちょっと合わないと思います。「猫への教科書」の方が内容に合うのではないのでしょうか。

本当かどうかはわかりませんが、これは、天才のメス猫が書いた本だそうです。猫の手では、上手にタイプができなく、打ち間違いがあったり、余計な部分を押ししてしまったりで、この本の作者がその間違いなどを直して、この本が完成させたそうです。また、この天才のメス猫がなんとという名前で、どの猫かはわからないそうですが、「この猫かな」ということはわかっているそうです。

この本は、「私がまだほんの子猫のとき、母を亡くすという不幸にあって、私は生後六週間で、この世にたったひとり放り出されてしまいました。」というところから始まっています。

これは、子猫、野良猫、捨て猫たちのために書かれたものなので、「人間の家を支配するためには」や、「人間の扱い方」、「猫の居場所を確保するためには」などということが書いてあって、人間にはあまり役に立ちませんが、面白いです。

私の家は、パパが猫アレルギーなので、猫を飼うことができません。だから、「鳥とか、他の動物を飼いたいな」と思っていたのですが、この本を読んで、余計、猫を飼いたくなりました。



ちゅんちゅんが作った

詩

一年間に会った鳥たち

春だ 春だ 桜が咲いた

木の上 見れば 鳥がいる

桜の枝に メジロさん

桜だ、桜だ、おいしいな

桜の蜜を 吸っている

夏だ 夏だ 暑すぎる

木の上 見れば 鳥がいる

口を開けた シジュウカラ

暑い、暑い、苦しいよ

暑くて口を開けている

秋だ 秋だ 葉っぱが落ちた

もみじを 見れば 鳥がいる

枝にとまった ツバメさん

そろそろ、出発、しようかな

南の国に 帰るらしい

冬だ 冬だ 雪が降る

外を見れば 鳥がいる

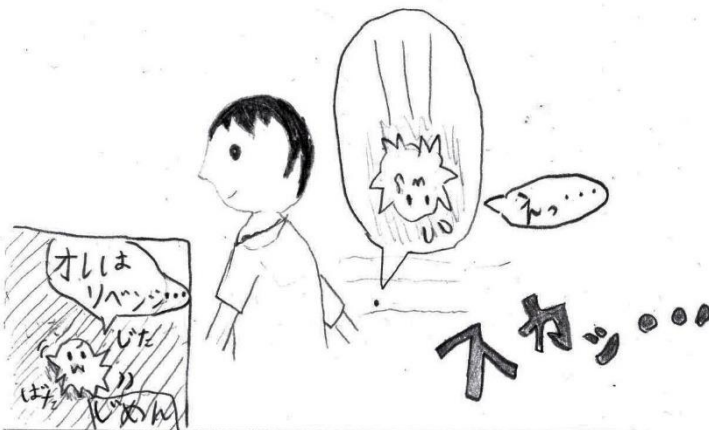
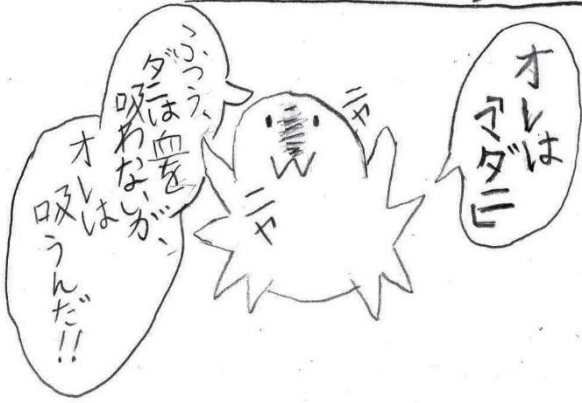
雪の中には ジョウビタキ

どこだ、どこだ、食べ物どこだ

雪の中を 探してる

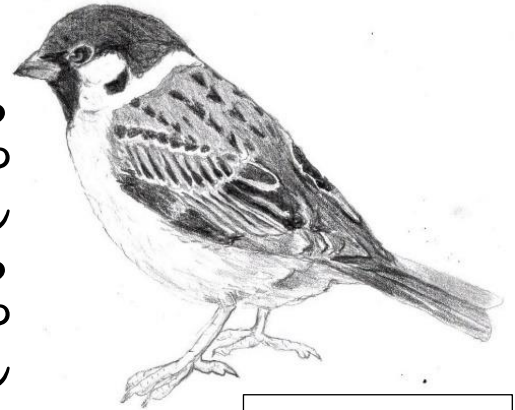
春だ 春だ また春が来た

I'm a MADANI



いろいろな生き物

4コマ漫画



ちゅんちゅん・画

ちゅんちゅん・作

第5話



たまにはリアルじゃないときも

私は、絵を描くことが好きです。4コマ漫画を書き始めたのは、「絵を描くことが好きだから」ということもあります。わたしは、絵を「なるべくリアルに描こう」と頑張っています。そんな私でも、たまにリアルに描かないことがあります。たとえば、今回の四コマの「マダニ」のイラスト。本来はこのイラストよりも足が細いし、胴体にも細かい模様があります。でも、細かく描いてしまうと、見にくいし、気持ち悪いし、馴染みにくい。だから、あえてリアルじゃないイラストにしたのです。